

# 相高新聞

相生市山手1-722-10  
TEL (0791) 23-0800



HPのQRコード

## 3学期始業式

一月八日(火)、三学期始業式を行いました。西校長から、「『マインド・セット』とは『考え方の基本的な枠組み』を意味するビジネス用語で、物事に対して取り組む姿勢、心構え、覚悟などを表す。二年前の世界ラグビーで『歴史的な大事件』『奇跡の勝利』『史上最大の一番狂わせ』などと言われた、優勝候補で世界ランク三位の南アフリカに日本が勝利したことで、この言葉をよく聞くようになった。その時、日本のヘッドコーチであったエディ・ジョーンズ氏は、勝因を『選手のマインド・セットを世界に通ずるよう変えることができる』と発言し、『Can't + do(できない)意識を排除し、Can do(できる)意識を植え付ける』こと、そのために『Japan Way』(日本流)を繰り返して信じていくこと、その『Japan Way』(日本流)は



日本の強みである、常にパスをつないでボールを動かすことを指導した。つまり『強みを把握して最大限に活かす』ことを徹底した、そうすれば勝てるという努力も裏を返せば『勤勉』という日本人の強みを活かすことに他ならなかった。皆さんもCan do(できる)意識を持って何事にも取り組んでほしい。そのために『自分の強み』は何なのか。どうしてもそれを最大限に活かせるのか、一度考えてみてほしい。そして、Can do(できる)と繰り返し自分に言い聞かせ、自分の強みを伸ばす努力をしてほしい。きつと『歴史的な大事件』が起こるはずだ。今年が皆さん一人一人にとって『歴史的な大事件』が起こるすばらしい年となることを祈念する」というお話がありました。

大会結果などの披露に続いて、中村生徒指導部長が①自分のかけがえない命を大切に、精一杯生きてほしい②周囲のことを

考えて行動しようと、話されました。



## 特別講義 機械はなぜ計算できるか

一月十一日(金)、二年五組自然科学コース四十名を対象に、神戸大学海事科学部の山本茂広教授を招き、特別講義をしていただきました。



船舶の自動検出は、複数のカメラによる視差を利用して距離を計測しており、また海と船の違いをどのように判断しているかを、動画で説明していただきました。トランプジスタやダイオードの仕組みを利用して、アナログ計算機が計算する仕組みも教えていただきました。数学や理科で習っていない範囲もあり少し難しい内容でしたが、生徒たちは熱心に聞いていました。

最後に生徒からの「大学で工学を学習するにあたり、今のうちに身に付けておかなければならないものは」という質問に対して、「理科や数学の知識は無論だが、論文を読んだり、書いてたりするためには英語の力が必ずや必要なので英語をしっかり勉強し、また色々なことに興味を持ち、幅広い知識を身に付けておくことが大切」と仰っていました。

## 四十回生 センター試験激励会

一月十九日(土)・二十日(日)に実施された大学入試センター試験の激励会を、十八日(金)に行いました。

本番において持てる力を存分に発揮できるように、校長、進路指導部長、学年進路担当、学年主任から、激励の言葉、アドバイス、当日の諸注意をいただきました。その後、スライドショーを見て、これまでの高校生活を振り返り、毎年恒例になっている、学年の先生からの力いっぱい激励を受けました。先生たちの掛け声に合わせて、学年の生徒たち全員が張り裂けんばかりの力強い声で返し、体育館全体が大いに盛り上がりました。



## 四十二回生 百人一首大会

一月二十三日(水)LHRの時間に、一年生が「百人一首大会」を行いました。これは日本独自の文化であるカルタ遊びを通して、豊かな教養を身につけ、クラスの親睦を図るなどを目標に、三十六回生から続いている本校の伝統行事です。各クラス八班(一班五人)の班対抗で、百枚の

札を二試合に分けて三十枚ずつ取り、その合計枚数を競いました。九日のクラス大会同様、各担任が読み上げること、一文字目で勝負がつく班もあれば、下の句になってようやく札を取り合う班もありました。「はい」と大きな声で札を取る人もいれば、静かに札に手を伸ばす人に賛嘆の眼差しを注ぐ光景も見られました。減っていく札を見つめ、一首読まれるごとに歓声や悔しがる声が会場に広がりました。小・中学校での競技の経験を生かし、六十枚の内、一人で三十八枚も手にする強者もいました。



## 四十一回生 修学旅行結団式

一月二十五日(金)に、修学旅行結団式を行いました。内容は、①校長(団長)挨拶②引率職員紹介③旅行業者挨拶④学年主任より⑤連絡事項です。

修学旅行の詳細は、次号でお伝えします。

